

2026年度 北見藤高等学校シラバス

〔教科〕 〔科目〕	〔数学〕〔数学C〕	3 年	2 単位	教科書	数研出版 「最新数学C」	副教材等		履修対象・ 使用教室 等	3年グローバルコース	
教科 ・ 科目 の 目標	(1) ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 (2) 数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる									
評価 の 観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価 方法	＊単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い，〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 ＊単元などの観点別評価に基づいて，学習全体の総合的な評価を行ったものを「5 段階の評定」とする。									
評価 資料 ・ 評価 比重 （100点換 算）	評価資料等		予定回数・内容等			知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	授業内での取り組み、姿勢					50		50	70	
	課題レポート		回数は随時、演習問題及び入試問題に対する課題レポート			50		50	30	
	〔観点別配分％〕		（3 観点の比重を％で示しています）							
月進行 〔計画〕	【単元名】 学習項目名	配当 時間 〔計画〕	学習内容・目標（到達点） など			主な評価資料		評価の重み付け〔◎○〕 知・技 思・判・表 態度		
4 5	平面ベクトル ・ベクトルの内積 ・位置ベクトル ・ベクトル方程式 空間ベクトル ・内積 ・位置ベクトル ・空間図形への応用	15	・ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。 ・位置ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。 ・ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。			授業内での取り組み、姿勢		○	○	○
						課題レポート		○	○	○
6	複素数平面 ・複素数の和と差 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理 ・複素数と平面図形 ・複素数平面上の点の軌跡	10	・複素数平面について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。			授業内での取り組み、姿勢		○	○	○
						課題レポート		○	○	○
7	式と曲線 ・放物線 ・楕円 ・双曲線 ・2次曲線の平行移動 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と極方程式	10	・2次曲線について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面上の曲線がいろいろな形で表されることについて理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。			授業内での取り組み、姿勢		○	○	○
						課題レポート		○	○	○
8月以降	入試問題演習	35	入試問題へ対応する応力を養う。			授業内での取り組み、姿勢		○	○	○
						課題レポート		○	○	○
学習の アドバイス	・教科書を中心に，内容の説明，例題の解説と問題演習を通して基本事項を理解し，問題解決能力を身につけること。 ・授業で扱った問題については必ず復習し，理解の定着を図ること。 評価は，(1)授業でのコミュニケーション活動への参加姿勢、(2)課題レポートに対する取り組みの状況、(3)授業への出席状況と取り組みの姿勢をもとに総合的に行います。 各学期の成績を総合し，基準に到達すれば単位認定します。									